

2021年 11月 14日

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人

健康まちづくり推進協会

代表者 理事長 氏名 鎮静 俊哉

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、HPで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので予めご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載する為活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

「防災市民サミット2020」の開催と「防災ガイドブック」の製作

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期、会員数など。180文字程度まで)

阪神大震災の経験を検証し今後の教訓とする啓発活動を行うため、被災地の復興支援に従事する学生ボランティア、社会人、医療従事者、弁護士など学識者が中心となり、平成17年9月NPO法人を設立し、市民を対象に防災に係る講演会、講習会、展示会等を開催しております。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

世界的に流行する新型コロナウィルス感染症拡大の最中、阪神淡路や東日本大震災、近年の気候変動を要因とする自然災害の経験と教訓を後世に伝え備え活かすため、防災をテーマとする講演会や展示会の開催、救命士講習会の実施やガイドブック製作などの諸活動を通じて、平時において市民防災の意識啓発を促し、被災地の復興支援に寄与することを目的とします。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

① **防災市民サミット2020:** 「都市災害は進化する：新型コロナウィルス対応～防災の視点で～」と題し、関西大学特別任命教授、河田恵昭先生が近年気候変動による頻発する自然災害に加えて、世界中で猛威を奮うウィルス感染症への危機管理の在り方を都市防災の視点で解説されました。続いてコロナ禍で被災地支援活動に従事するひょうごボランタリープラザ所長、高橋守雄氏による活動報告と災害ボランティア助成制度解説のあと、両講師は参加者の質問に応答されました。また今回講演を録画、ダイジェスト版を制作編集し、後日希望者には動画配信を行いました。
② **防災ガイドブック:** 上記行事の掲載と、民間他団体の防災活動紹介冊子を製作頒布しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数等)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)等の『効果』 300文字程度迄

① **防災市民サミット2020:** 令和2年9月5日、神戸市勤労会館会議室にて感染症対策を施して収容定員の半数60名が受講され、市民が平時における物心両面の備えと想定訓練の重要性、一方非常時において如何に冷静に迅速に対応すべきかを学びました。続いてコロナ禍の最中、被災地の大変困難な支援活動の現状で、災害ボランティア助成制度の有効利用を知りました。更に制作編集した動画を通じて、後日多くの方へ有益な情報が配信提供できた事は幸いです。
② **防災ガイドブック:** 令和3年1月～5月、地域、学校、職場において実践可能な防災教育の学習教材としての利用や、防災事業団体の広報資料に活用され、相互交流の機会が増えました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

市民に対する防災事業として、有識者講演と支援活動報告、動画制作と印刷物頒布が定着しましたが、近年参加者の高齢化と固定化が顕著なため、今後より幅広い年齢層からより多くの参加者を募るために、参加者の意見を反映できるテーマの設定と、学生や若年層の活動も目を向けた多様多彩な講師の選定、大学、自治体、報道機関など関係各位の協力を得て、できるだけ事前の広報に力を注ぎたく存じます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。	参考資料あり・特になし
---	-------------

